

## 月報 日本から発信!

2003年10月号

GLOCOM情報発信機構  
国際情報発信プラットフォーム  
<http://www.glocom.org>

## 9-10月の動き

日本の「ソフトパワー」の台頭  
さらなる改革が必要な日本経済  
高齢化社会を迎える日本  
バイリンガル物書きのすすめ

## 日本の「ソフトパワー」の台頭

**J** 感覚といわれる日本の「クールさ」が海外で話題になっている。以前からアジアでは、日本の映画、アニメ、ゲーム、音楽などいわゆる「J」ポップカルチャーが話題になってきたが、欧米でも「ポケモン」や「千と千尋の神隠し」が大ヒットしたこともあって、そのような日本ブームがグローバルに広がってきた感がある。

また最近海外で日本語を習う若者が増えているが、その主要な目的は日本の「マンガ」を読むためとさえ言われている。実際に米国ではどの大きな書店に行っても、入口近くに日本の漫画本の英訳が置いてあり、一大ブームになっている。統計的にも、日本製アニメ関連商品の対米輸出総額は、鉄鋼輸出総額の4倍に上っているという。

つまり、日本はこれまでの経済力よりも、いわゆる文化的な格好良さのような「ソフトパワー」がより注目を集めている。経済のハードパワーの指標である

GNPよりも文化のソフトパワーを示すGNC(グロス・ナショナル・クール)が重要になってきたと言えるであろう。

実際にこの傾向は、ここ1ヶ月間にGLOCOMで開催されたセミナーを見ても、久保田ラリー氏の「国際市場に通用するコンテンツの創造」、田中辰雄氏「ゲーム産業の経済分析」、勝又美智雄氏「観光立国と町づくり」といったようにソフトの魅力やクールさを内容とするものが目立っている。

情報発信プラットフォームでも、例えば沖縄におけるアニメ関係の研究所についての報告などを掲載している([http://www.glocom.org/special\\_topics/activity\\_repcom\\_regions/200109\\_com\\_s1/](http://www.glocom.org/special_topics/activity_repcom_regions/200109_com_s1/))。

今後さらに、このような内容を掲載するつもりであり、またこの分野におけるGLOCOMの専門家を結集して日本のソフトパワーと国際比較についてのプロジェクトを立ち上げる予定である。

- 宮尾尊弘(情報発信機構長)



©TATSUNOKO pro.

アニメのキャラクター

## 目次:

9-10月の動き	1
日本の「ソフトパワー」の台頭	1
スマートモブズ・ワークショップをビデオで	1
さらなる改革が必要な日本経済	2
高齢化社会を迎える日本	2
バイリンガル物書きのすすめ	3

## スマートモブズ・ワークショップをビデオで

ハワード・ラインゴールド氏は、「スマート・モブズ」という表現で、モバイルとネットが結びつき、誰もがいつでもどこでも情報をやり取りできる中で出現する一群の人々の存在を指摘し、彼らによって新しい秩序が生まれることを指摘している。気鋭の権力や資金がない人たちも権力者と同等の力を手に入れることができる。このたび、著書の日本語版出版を記念して、グローコム主催でワークショップが開催されたが、その模様をビデオで見ることができる。内容もさることながら、プレゼンテーションの方法にも同氏の個性が表れていて興味深い。

[http://www.glocom.org/special\\_topics/activity\\_rep/20030909\\_smart\\_mobs/](http://www.glocom.org/special_topics/activity_rep/20030909_smart_mobs/)

## さらなる改革が必要な日本経済

**経**済財政政策に関して首相のリーダーシップを十分に発揮することを目的にして、2001年1月から内閣府に設置されている「経済財政諮問会議」、その民間委員としての重責にある牛尾治朗ウシオ電機会長から、構造改革の必要性についての力強い提言と決意が発信された。

「さらなる改革が必要な日本経済」という表題で情報発信ウェブサイトに掲載された論文の中で、牛尾氏は、日本ではこれから数年のうちに次の成長の新局面に入る時が来るといふ明るい見通しを持っていると述べる。ただし、この実現のためには、規制撤廃をさらに推し進めること、そして地方への権限委譲と特殊法人の民営化をこの先2年で実現することにより、官から民へ、国から地方へという民間主導型社会に変わることができ、それが成長を推進することになる、と指摘している。

そうして、国の財政悪化と日本社会の高齢化という深刻な問題を解決する準備が整った後に

消費税率を引き上げて、国の借金返済と高齢化に対する策のために使うべきであるとする。

この主張の一つの背景として、同氏は、中曽根内閣時代の国鉄、電電公社、専売公社の民営化をあげる。当時、経済発展の重しになっていた国鉄が、民営化により3つのJR会社は大変収益を上げるように体質が変わったこと、そして、情報通信産業の分野ではNTTが、現在では携帯情報技術やサービスで世界の最先端を走っていることをあげる。そして、今の日本の繁栄のかなりの部分が、中曽根内閣時代の国鉄・電電・専売の民営化によっているという認識の下、さらに改革を進め、日本をよりグローバルな経済にすることにより、当時と同様の効果をあげることに期待が持てると指摘する。

この論文は、折しも小泉氏が自民党総裁としての再選に機を合わせて掲載されることになり小泉政権の改革政策を再確認する意味でも時宜を得たものになった。

[http://www.glocom.org/opinions/essays/20030922\\_ushio\\_reform/](http://www.glocom.org/opinions/essays/20030922_ushio_reform/)



牛尾治朗  
ウシオ電機会長

## 高齢化社会を迎える日本

**生**まれる子供の数が減る一方、もともと数が多い世代が医療の進歩によって寿命が延びる、すなわち日本が高齢化社会を迎えるにあたって、何を準備しどのような施策を実施して行くべきかについて、さまざまな提言が行われているが、9月の情報発信ウェブサイトでは、慶應義塾大学教授の清家篤氏と、内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官という長い肩書きを持つ原田泰氏の二つの論文でこのテーマを採りあげた。

清家氏の論文では、豊かな社会の維持のための雇用のあり方について論じられて居る。高齢化社会では、意欲と能力がある労働者には現在より高い年齢まで働いてもらう必要があるとの認識に立ち、最大の問題は定年制と、それを支える年功序列の制度・慣行であると指摘する。また、労働者の市場価値を高めるための教育・訓練を充実するなど、労働資源の効率的運用を図らなければならないと

主張する。

原田氏は、そもそも高齢化社会を憂う必要は無いとする。いわゆるピラミッド型の人口構成というのが、幼児から高齢者までどの年齢層でも誰もがいつも死亡する社会であるのに対し、寸胴型の人口構成というのは、殆どの人が天寿を全うするという、すなわち幸せな社会だと指摘した上で、しかしこのままでは、より少ない労働者が社会を支える構造になることから、必要な改革を提言する。ひとつは新たな労働力としての女性の活用であり、もうひとつは年金改革である。ただし原田氏は、これらの提案について、よくコストを吟味して、人々の理解を得て進める必要があると指摘している。

急激な高齢化社会に突入しつつある日本については世界的にも注目を浴びており、今後この方面の考察・提言を紹介して行く必要がある。

[http://www.glocom.org/opinions/essays/20030916\\_harada\\_is/](http://www.glocom.org/opinions/essays/20030916_harada_is/)



お年寄りが集まる巣鴨商店街

## バイリンガル物書きのすすめ

### 1. ホームページ活用：

ここ数年来、いろいろ物書きした結果、ホームページは30MBにもなった。ここではホームページを活用した物書きの効用を述べたい。ホームページには書き上げた作品がいつも一覧できる。それは相互に内容を競い合い牽制する。全体として一つのストーリーが展開される。講演会や本や出張の際などの刺激的な情報は次の作品の取材のチャンスとなり、今までの作品群との関連では、内容を展開し、詳述し、補足し、批判する新たな作品となってホームページに追加される。



日英両国語で作成された  
小林氏のホームページ

### 2. 何のために書くか：

書くことは今まで気付かなかった特徴を発見して区別することである。子供の頃、河原で石拾いをした思い出があるが、そのとき「いろんな種類の石を拾った」としか表現できなかった。後に地質学を学ぶことによって、全く違った岩石の世界が出現した。物書きには、知識と関連性と好奇心の3つが必要である。ホームページへは不特定のアクセスがある。それは物書きにとっては緊張感を必要とする。読者の多くは友人知人かも知れないが、一番の読者は自分自身である。それは備忘録となり、次の物書きのヒントや材料になる。またビジネスでの報告書やプレゼンテーションにも役立つ。

### 3. PCを活用して書く：

PCを使って書くことのメリットは大きい。ランダムに書いた後での加筆・訂正は容易である。画家はどのような順番で描くのだろうか。それは背景からではなくおそらく一番書きたい対象から描くのではないか。また電子辞書は便利である。もし辞書になければ、インターネットで調べる。インターネットは情報の海であり常に最新の情報がある。常時接続環境はこのような場合、実に役に立

つ。物書きはベストエフォートならぬベターエフォートの気持ちでいきたい。訂正するまでは、仮の文章として取りあえず残しておき、将来改善すればいいと考える。

### 4. 二カ国語表記のすすめ：

同時通訳者の米原万里さんの本の題名にあるような「不実な美女が貞淑な醜女か」の課題がでてくる。美しくかつ魅力のある表現は忠実な訳とは言えず、逆に、忠実に訳そうとすると文章が美しくなくなり魅力もなくなるという二律背反である。但し、物書きには時間という特権がある。辞書や参考書など時間をかけて調べることでこの両目的を追求できる。特に、IT関連では、新たな概念や技術用語が新たな用語として主に米国から流入してくる。英文法は、主語、時制、単数が複数、他動詞が自動詞かなど明確な表現を要求する。ジョークの表現にも論理的なおもしろさが必要のようだ。それぞれの物書きには日本語用と英語用の二本の筆がある。二つの表現方法は時には互いに衝突する。それは強い利き腕の母国語と弱い外国語による葛藤かも知れない。しかしこれらを通じてむしろ表現が洗練され陰影がでてくる。バイリンガルでの物書きはいわば視差によって立体的な表現になるのではないか。PCのグラフィック表現にはJPEGとGIFがある。日本語はJPEGに相当し、英語はGIFに相当すると思う、その理由は、JPEGは写真のような連続する階調の中間色を表現するのに適し、GIFはグラフィックのような明瞭な境界を明確な色で表現するのに適しているからである。両方とも補完的で必要である。我々日本人は英語のように豊富な辞書や参考書のある主要な言語に触れられるのは幸せというべきで、もっと英語で学び、読み書きすべきであろう

小林寛三  
グローコム、フェロー

小林氏のホームページ URL :  
<http://www.nti.co.jp/kobakan/>



月報・日本から発信！

月1回月末発行  
発行人・宮尾尊弘  
編集人・浦部仁志

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター  
106-0032 東京都港区六本木6-15-21 ハークス六本木ビル2F  
TEL: 03-5411-6714 / FAX: 03-5412-7111

ウェブサイトにもぜひ  
<http://www.glocom.org>

日本語ページもあります

第2ページで紹介した牛尾氏、清家氏、原田氏、そして本ページ下段で触れました久保氏の論文は、日本語の要訳を情報発信のウェブサイトで見ることが出来ます。トップページの上の方にある「Summary Page (Japanese)」をクリックして頂くと直近のサマリーページに行けますので、表題部分を、或いは「詳しい記事」と表示された部分をクリックして下さい。また過去の記事は左側の「Past Summary」から見ることが出来ます。

今月の第3ページでは、小林寛三氏のコラムをご紹介しましたが、コラムの中でも同氏が主張している通り、この原稿は、日本語と英語の両方で頂きました。構成上、このニュースレターでは日本語しか掲載できませんでしたが、情報発信ウェブサイトに英語版を掲載しましたので、ご興味があれば是非ご覧下さい。

[http://www.glocom.org/special\\_topics/social\\_trends/20030929\\_trends\\_s57/](http://www.glocom.org/special_topics/social_trends/20030929_trends_s57/)

## 追記

本文で紹介した以外にも、9月の情報発信ウェブサイトでは久保文明東京大学教授から「米国政治の長期傾向と短期変動」という表題で論文が寄せられた。特に最近日本でもしばしば話題に上ようになった「ネオコン」について、数十年前の台頭から、共和党の政策にどのように影響を与えたか、そしてその結果、現在では共和党と民主党の政策に大きな乖離を生じており、対極化した二大政党の下、選挙のつど米国の政策が大きく振れるという不安定な状態にあることを指摘した論文を掲載した。

米国内でもイラク戦争への反省機運が高まる中、ブッシュ大統領の政策に大きな影響を及ぼしたとされるネオコンに関する解説は時宜を得たものであった。そのためか、この論文には質の高い質問やコメントが幾つか寄せられ、更に久保教授の追加コメントを得たものもあった。

これらの一部は情報発信ウェブサイトでも紹介した。

月例セミナーでは、テレボディー社長のマシュー・ローゼン氏から、オープンソースとオープンナレッジに関する講演があった。折りしも、日・韓・中の各国政府が「脱Windows」を目指して新たなOSを共同開発するとの発表があったばかりであり、オープンOSとしてのLinuxの発展を踏まえての説明は時宜を得たものであった。また、フリーナレッジについては、バイオ、アグリ、ナノテクからアニメに至るまで、特許と著作権に関わる現象の解説が行われた。

一方、情報発信ウェブサイトではその翌週、グローバルコムフェローである名和小太郎氏により、世界各地の先住民によって育まれて来た伝統的知識やフォークロアが、先進国の特許・著作権制度と確執を生じている現状についての分かり易い解説を掲載した。

この方面の展開にも引き続き注意を払う必要がある。

### GLOCOM情報発信機構

親委員会メンバー  
公文 俊平（委員長）  
青木 昌彦  
猪口 孝  
牛尾 治朗  
行天 豊雄  
小林 陽太郎

親委員会特別顧問  
中山 素平

運営委員会  
宮尾 尊弘（委員長）  
佐治 俊彦  
中馬 清福  
勝又 美智雄